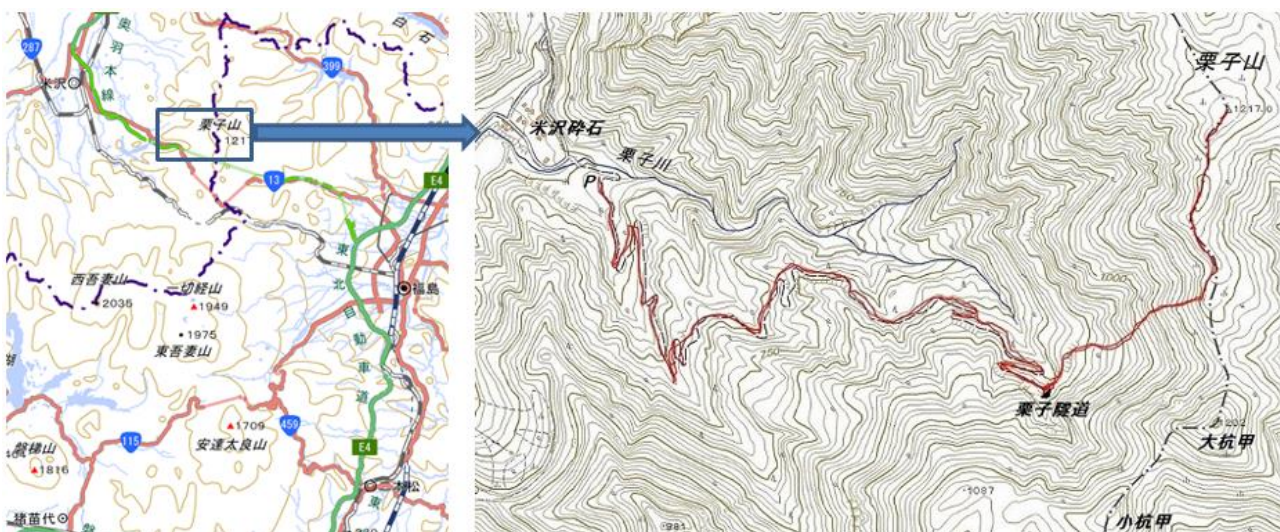


春の洗礼 IN 栗子山&霊山

- 【日 程】 5月18(土)～19(日) 前夜発 2日共 晴れ
- 【山 域】 奥羽山脈(栗子山)と阿武隈山地(霊山)
- 【ル ー ト】 1日目—栗子山(1217m)
2日目—霊山(825m)
- 【登山方法】 やぶ山(栗子山) 霊山(ハイキング)
- 【参加者】 CL 柘植 SL 鈴木憲 磯部(食料) 石井 杉山 加藤 高地 金(記録)
- 【コースタイム】 栗子山登山口 7:40—9:15 旧栗子隧道—11:10 栗子山 11:30—14:20 登山口
霊山登山口 6:50—東物見岩(霊山最高峰)8:40—10:20 登山口

1日目：栗子山（奥羽山脈）



10連休の残雪三昧も終わり、いよいよグリーンシーズン突入の第一弾としてお楽しみ山菜山行に行ってきました。山菜と言えばシーズンにお店で頂くことはあっても摘むのは初めてで、正直食べるほど摘めるのか？見つけられるのか？と疑問であった。その昔、奥多摩にて春になると袋を持って何かを摘みながら歩く人を不思議に思ったものだが、今にして思うとあれは山菜を採っていたのではないかと今更ながら合点がいったのであった。まさか自分が山菜を採るようになるとはね。ホント、個人では考えられないような色々な体験をさせてもらえて有難い限りである。ようやく春の新緑とフレッシュな山菜を楽しめると思いルンルンでいた私に「春の洗礼」が訪れるのであった。



瀧岩上橋の先の車止めがスタート地点



歴史の道「万世大路」を行く

碎石工場の敷地を通り抜け狭い道を行くと車止めがあり、我々はそこから歩きだした。経験豊かな諸先輩達は出だしから早速山菜を見つけて摘み始める。タラの芽、ワラビ、ヤマブドウ、コシアブラと見つけていくが、やはり本日の花形はコシアブラでしょう。実はタラの芽とかコシアブラが木に生えているのを初めて見た私。



昔はバスも走っていた道：今はその面影もない



明治に掘られた旧栗子隧道は洞窟のよう



昭和前期に掘られた二代目も崩壊して通れない



稜線への急登の踏み跡は意外と明瞭

プラプラと一時間ほど歩いてフキノトウも見つけ喜ぶ私に遂に「洗礼」の 때가やってきたのだ。栗子隧道の脇から森の中に入って行く。それは次第に人が通ってはいるが整備などされぬ急坂の登山道がスタートする。山菜にばかりに気を取られすっかり甘く見ていた私を嘲笑うが如く、どんどん斜度は増し、脇の草や木の枝を必死に掴んでよじ登る事になった。しまったと思っても後の祭り。そうだ、もう雪はないこの季節は雪藪ではない。正真正銘の藪に突入したのである。



藪中の足元にひっそり咲くシラネアオイ



栗子の山頂部が見えてきた



上部は藪の背が低くなり展望が広がる



稜線は低い笹藪で遠方は吾妻連峰

ゼーゼー言いながらようやく稜線に出ると、そこは思いの外眺めが良く今までとは別世界が広がっていた。が、一息つく間もなくそのまま稜線上の笹藪に突入。足元から腰。次第に身長ほどの藪を両手でかき分け、足元の枝を踏みつけ、まるで迷路のような所を突き進んでいく。最後の方は若干迷走気味になりつつも、どうにか一等三角点だけがポツンとある……道標など当然ない……山頂にたどり着いたのであった。



かなり濃い藪を潜り抜けて栗子の一等三角点



帰路の正面は大杭甲山

眺望のない寂しい山頂でしばし休憩後、再び藪に戻っていく。いやはや、刺さるわ、打たれるわ、生傷が絶えないわな。人生初の藪漕ぎに必死こく私。山頂で高地さんが素敵な替え歌を覚えてくれたが、まさにそれよ。「♪その藪を漕いで行け～おまえの手で漕いでいけ～」船を漕ぐならわかるさ。藪だよ、藪。TOKIO の長瀬もびっくりさ（苦笑）ちなみに藪のグレードがあり、リーダーによれば手でかき分ける程度の藪は6段階中2番目に優しい2級らしい。いやいや充分お腹いっぱいですわ。

その日の夜は色々な紆余曲折の後、霊山近くの激安キャンプ場にて山菜パーティーを楽しみました。



山菜は自然からの恵み
少しだけおすそ分けを
いただいて楽しめます



天ぷらはやはりコシアブラがとても美味しく、次に待望のフキノトウ、僅かに酸味を感じるヤマブドウ、タラの芽と三昧でした。ワラビとミズはあっさりとおひたしにして食べ、スーパーで調達したトマトや浅漬け、みそ汁に五目御飯と盛り沢山でした。そして私はまた初天ぷら揚げを体験。食事担当の磯部さん、本当にご苦労様でした

2日目：霊山（阿武隈山地）



翌日、霊山に向かうが、私の心は前日の藪の恐怖がちらつき、思わずルートの確認をしてしまったが、一般的な登山道と聞き少しだけ安心した。いや、またそうやって呆けていると不意打ちを食らうかも(笑)と微妙に疑心暗鬼。登山口に立派な広い駐車場があり、我々が一番乗りで到着。また駐車場に帰ってくるように周回コースを歩く。



広い駐車場に一番乗り



岩岩のあいだを小人のように歩く

登山道的には初級クラスといえども、岩場が多く修験道の霊山寺、南北朝時代には霊山城もあったという歴史ある山らしく由緒正しき山である。大体修験道の山って地点で岩好きな人が喜ぶ岩があるんだろうと思ったら、予想通りハシゴが出てきた。そして私は岩はあまり得意ではない。



宝寿台のはしご



護摩壇



護摩壇から先は山ツツジののどかな散策路



霊山城の跡地



霊山最高峰の東物見岩



五百羅漢岩のトラバース

まあ、そうは言ってもさほど恐ろしい系もなくポチポチ登り、優雅に風景を楽しむことができた。ふふ、前日のインパクトがありすぎて、二日目はとにかく平和の一言に尽きた。前日の栗子山では他に人に会わなかったのが、霊山で最初に人に会った時はびっくりしてしまった。いやいや、駐車場に戻ったら大分車で埋まっていた、普通に人が来る山なんだと思った次第であります。会に入ってようやく一年が過ぎましたが、まだまだ未経験の初物を楽しむ日々でございます。余談ですが我が家に帰ってからもお土産の山菜をナムルにして食べました。おひたしとはまた違った味わいで個人的にはナムルもイケてると思いました。最後に山菜山行に誘ってくださった柘植リーダー、また今回一緒させていただいた皆様、ありがとうございました。

山行報告：金 令姫